

## 工芸製品の商品開発体制高度化研究

坂本 晃\*・吉岡誠司\*・川上慎太郎\*\*・富田一平\*\*\*

\*別府産業工芸試験所 \*\*川上工芸社 \*\*\*九重民芸

### Sophisticating of Development System of Industrial Arts Products

Akira SAKAMOTO\*・Seiji YOSIOKA\*・Shintaro KAWAKAMI\*\*・Ippei TOMITA\*\*\*

\*Beppu Industrial Art Research Division

\*\*Kawakami-kougeisyu co.Ltd. \*\*\*Kuju-mingei

#### 1. 目的

工芸産業においては、製品開発力が企業の発展に大きな影響を及ぼす。しかし、県内工芸関連企業は個人経営か従業員が数名程度の小規模経営が大半であり、業務の分業体制が確立されておらず、開発に当っては経営者自らが行うか経験を重ねた技術者が兼ねて行っているのが現状である。

また、工芸品における製品開発の手法は、体系化された理論やマニュアルは存在せず、経験と勘による個人のひらめきに頼る産み出し方が多いと思われる。しかし、工業的に作られる他の素材の商品や輸入品との競合に勝ち抜いていくには、工芸関連企業においても、計画的な製品開発の手法を研究する必要がある。

そこで、本事業では、工芸製品の製品開発体制高度化をテーマとして、産地のリード役となる研究者の養成を目的に実施した。

#### 2. 内容

##### 2.1 製品開発手法の調査

製品開発手法がよく研究されている工業デザイン分野の文献<sup>1) - 6)</sup>から製品開発プロセスについて調査・分析を行った。

##### 2.2 調査・分析

製品開発プロセスを調べると、共通する点及び重要と思われる点は以下のとおりである。

- 製品開発の骨格は、開発プロセスの前半部分のコンセプト及びアイデアの段階で決定。
- 形や色などの造形（デザインワーク）は、プロセスのかなり後の方で実施。
- マーケティングの知識および技法が必要。
- 生活者の研究と問題意識を持つことが重要。

●製品開発は経営、技術、デザイン、生産、営業、広告など各部門の組織の連携プレイが効率的。

この製品開発プロセスの調査・分析の結果をふまえて、実際の製品開発の中で自社に適合する開発プロセスとして、次のような図式を各々作成し製品の試作を行った。

#### 3. 結果

##### 3.1 川上工芸社

研究者：川上慎太郎

テーマ：竹製バッグの製品開発

試作：7種7点

ターゲット：18～20代の独身の男女、職業はOL及びフリーアルバイター

コンセプト：①竹の編組と皮革を縫製技術によって組み合わせる。②テイストはカジュアル。③竹の編組を開放的で明るい色に染色する。

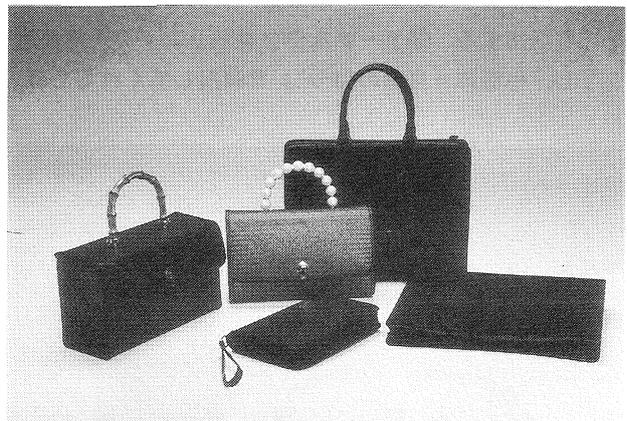
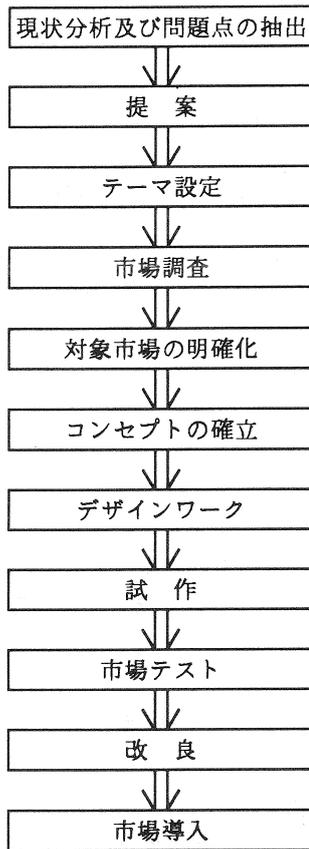
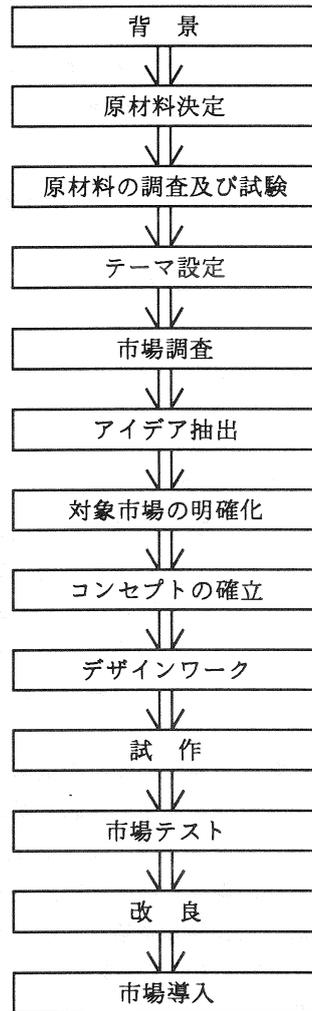


Fig.1 竹製バッグ

川上工芸社の製品開発プロセス



九重民芸の製品開発プロセス



3.2 九重民芸

研究者：富田一平

テーマ：樺材を活用したインテリア小物の製品開発

試作：5種5点

ターゲット：20代の独身女性、職業はOL、自然志向

コンセプト：①乾燥による反りを積極的に利用する。

②炭化処理で樹皮を分離させ、樹皮と本体の両方とも活用する。

③テーブルやフローリングの上で使用し、生活に「自然のイメージ」を演出してくれるもの。



Fig.2 キャンドル

3.3 まとめ

各企業の製品開発の中で、工業デザイン分野の製品開発プロセスを自社に合うように改良を施した。まだ、企業の経験が浅いため、このプロセスは完成していない点が多いので今後の修正が必要であろう。

しかし、工芸企業の今後の製品開発において、今回の製品開発プロセスによる実験は重要な指針となると思われる。

参考文献

- 1) 「工業デザイン全集・第2巻・製品計画」製品計画のプロセス (古賀唯夫：九州芸工大芸術工学部助教授)
- 2) 「工業デザイン全集・第2巻・製品計画」製品開発プロセス・ダイアグラム (古賀唯夫：同上)
- 3) 「工業デザイン全集・第3巻・設計方法」デザインプロセス (古賀唯夫：同上)
- 4) 新製品開発のための作業プロセス (一般例) (株式会社三菱総合研究所)
- 5) 今日の商品開発のプロセス (羽生道雄：モノプロデイナーズ)